

# ほのか診察室



シリーズ

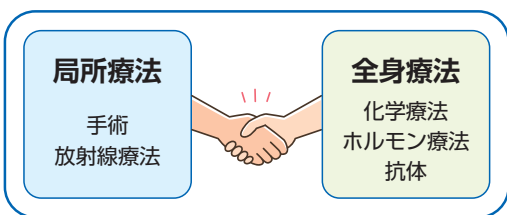
第125話

## 乳がんの治療法



市民病院  
乳腺外科非常勤医師  
(浜松医科大学医学部附属病院 第一外科)  
おぐら ひろゆき  
小倉 廣之 監修

乳がんは診断され、最初に受ける治療を「初期治療」と呼びます。初期治療には、手術や放射線療法のように乳房だけに作用する「局所療法」と、化学療法（抗がん剤）、ホルモン療法、抗体



法」と、化学療法（抗がん剤）、ホルモン療法、抗体などによる乳房も含めて全身に作用する「全身療法」があります（図①）。

一部の方は手術で乳がんを治すこと（治療）ができます。しかし、乳がんは比較的早い段階で乳房から全身へ広がります。全身療法は、すでに微小転移の恐れがあるがんを根絶し、乳がんの治療を目指すために行います。微小転移の有無は、乳がんの性質や発見された時期で異なります。微小転移を伴う確率（再発リスク）は、乳がんの「進行の程度（ステージ）」や「性格（ホルモン状況、HER2状況、増殖能など）」に大別され、しこりの大きさや腋窩リンパ節への転移の有無や程度、悪性度（グレード）など、さまざまな検査結果から推定します（図②）。これらのがんの程度や性格は、患者さんごとに異なります。そのため最適な治療法は一人ひとりの患者さ

んで異なります。最善の治療を受けるためには、まず自分の乳がんについて正しく理解すること、そして自分の乳がんに対する治療法が何かを知っておくことが重要です。

「標準治療」は「並」の治療？  
「最先端の治療」？

「標準治療」とは、「並」の治療と思う方がいらつしやるかと思えます。しかし、ここでの「標準」とは多くの臨床試験の結果をもとに専門家が集まって検討を行い、現時点で最善であると考えられた治療法を指します。新聞、テレビ、インターネットなどのマ

図② 再発リスクを推測する因子

因子	リスク	高い ⇔ 低い
がんの程度	しこりの大きさ	大きい ⇔ 小さい
	リンパ節転移の個数	あり(多い) ⇔ なし
がんの性格	ホルモン受容体状況	陰性 ⇔ 陽性
	グレード	高い ⇔ 低い
	増殖指標 (Ki67など)	高い ⇔ 低い
	HER2	陽性 ⇔ 陰性

スメディアで「最先端の治療」として取り上げられる記事は、まだ基礎的な実験段階で、実際の患者さんには施行したことがなかったり、効果についてもまだ確認できていなかったりする治療も含まれています。

「代替療法」とは？

手術や抗がん剤の治療は、患者さんにとつて初めての経験であり、誰もが不安になると思います。「体にやさしい治療」などと謳って、免疫療法、高濃度ビタミンC療法などが、インターネットでも数多く見受けられます。これらの治療法や民間療法などは、補完代替医療と呼ばれますが、乳がんの進行を抑えたり再発を予防したりする効果は医学的に証明されていません。ただし、がん治療に伴う副作用やがんによる痛みなどの症状を緩和する目的や、不安の軽減を目的とした補完代替医療の中には有用なものもあります。しかし、これらの治療の中にも肝機能異常などの副作用を起すものもあります。

一人ひとりの最適な治療法は、がんの程度や性格と合わせ、医師から書面などで説明がされます。今回お話しした治療法や補完代替医療についてご不明な点などございましたら、お気軽に医師や看護師にご相談ください。